

Q) 金山を空港からのゲートウェイと考えるならば、インバウンドの受け皿としての商店街は何ができるでしょうか。

A) インバウンドは今後もある程度は期待できると思います。名古屋では、ちょっと買い物をし、宿泊をして高山などにいってしまふことが多い。名古屋市がインバウンドをどう留めるか考えるべきだが、まだその戦略が無いのが現状です。名古屋城を木造で建てると言っていますが、それも爆発的な効果があるとは思えません。まず市が全体戦略をたてて、それを受けて商店街が果たす役割を考えるべきです。私から商店街が何をすべきだということを申し上げられません。

以上、概略ではありますが今回の講演内容をまとめさせていただきました。「まだまだ我々は『このまち』を過小評価していたのかも知れない。」と思わせるような大変夢のある、スケールの大きなお話をいただきました。語る会では、今後も様々なゲストスピーカーからのお話を伺い、「金山の可能性」や「まちづくりの方向性」等について、皆さんと共有していきたいと考えています。是非ご参加ください。

■ 活動報告

今回の語る会では、金山橋連合商店街振興組合の磯部理事長、金山商店街振興組合の片桐理事長から、それぞれの活動報告等もしていただきました。毎年恒例の「夏まつり」が次のとおり開催されますのでご案内します。

金山夏まつり

●日程 平成 28 年 8 月 6 日（土）・7 日（日）
●場所 日本特殊陶業市民会館 ほか
●主催 金山橋連合商店街振興組合

金山ナイト盆おどり

●日程 平成 28 年 8 月 8 日（月）・9 日（火）
●場所 ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋
●主催 金山商店街振興組合

両商店街さんが熱意を持って、趣向を凝らした大変楽しい催しです。事務局も毎年楽しみにしており、今年も連日連夜 (!?) 忙しくなりそうです (^_^)/
皆さんもご家族、ご近所お誘い合わせのうえ、是非お立ち寄りください。
また、名古屋市住宅都市局からは、現在策定作業を進めている「金山駅周辺まちづくり構想」の進捗状況についてご報告をいただきました。
基本方針（◎賑わいの継承 ◎文化・芸術拠点の拡充 ◎防災拠点の充実 ◎交通結節点の機能強化）のほか、配置計画の概略等について説明がありました。
本構想も今年中の策定を目途に、冬頃にはシンポジウムを開催し、地元及び市民の皆様の意見を聞きたいとのことでしたので、是非ご参加いただきたいと思います。語る会でも、シンポジウムの開催案内等周知に協力していきたいと思っています。

第 9 回 金山地区のまちづくりを語る会

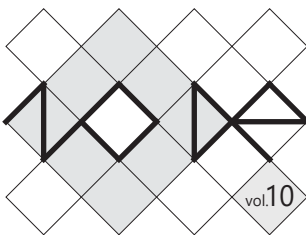
●日 時 平成 28 年 8 月 31 日（水）17:30~19:30
●場 所 名古屋都市センター 11F 大研修室
●内 容 ショートムービー上映会／トークセッション
金山を舞台に「待ち合わせ」をテーマに撮影されたショートムービーの上映会と、今回講師を務められた服部 敦氏（中部大学教授）等により「金山」に関するトークセッションを開催します。
●その他 語る会終了後、今回ショートムービーを製作された学生の皆さんを交えて交流会を開催しますので、是非ご参加ください。

金山ぶらり日誌



賑やかに第 3 回手羽先サミット
6 月 4 日（土）・5 日（日）の両日、金山商店街振興組合主催の「第 3 回手羽先サミット 2016」が開催されました。
手羽先発祥が熱田区の日比野のお店ということで始められた手羽先サミットですが、初夏を知らせる風物詩として多くの人に認知されるようになりました。少し雨が降りお天気を心配しましたが、ふたを開ければ来場者 41,000 人という大盛況ぶりでした。
全国から 20 店舗が出店し、「手羽先番長」のグランプリ 3 連覇に注目が集まりましたが、今年のグランプリは「世界の山ちゃん」に決まりました。
グランプリは逃しましたが、私が食べた手羽先もとってもおいしかったです。でもやはり「手羽先にはビール」というのが私にとっては定石？ビールも美味しかったです (^_^)/ 関係者の皆様、本当にお疲れ様でした !! (K)

7/8 Fri.2016



kanayama
machidukuri
kavaraban
vol.10

金山地区のまちづくりを語る会が、金山のまちづくりに関わる皆さんにとっての「交流や情報の結節点」でありたい。次々と新たな活動が生まれるような、「創造力の結節点」といえる場でありたい。そんな願いを込めて、本誌の名前を『NODE 【結節】』としました。



2016 年 6 月 21 日（火）15：00 ～
名古屋都市センター 11 階ホール

「金山地区のまちづくりを語る会」は 2 年目を迎えました。1 年目は、事務局も含めメンバー相互の人となりを知り合うことに力を注ぎました。「金山」を掴みあぐねて、「金山」についてどう考えていこうかと模索していました。
2 年目に入った今年は、「語る会」の方々と共に金山の重要性・可能性について認識したいと思いますし、名古屋の中の金山の「立ち位置」についても確認したいと思います。
金山駅周辺の再開発が視野に入ってきました。ぼんやりしていると不本意な開発に、金山が残念なことになってしまいかねません。そうならないためにも金山に関わる我々は力を合わせなくてはいけないことも、そして声を上げなくてはいけないこともあるでしょう。そのために様々な視点から「金山」そして「まちづくり」について学んでいきたいと思っています。

さて、「金山」のまちについて専門家はどう視ているのでしょうか。
今年度「金山地区のまちづくりを語る会」の第 1 回目は、この地方の看板エコノミスト、名古屋学院大学 現代社会学部教授の江口 忍氏に「現在の金山の位置づけと今後の可能性について」お話いただきました。
江口氏は、独自の視点からのデータに基づく経済分析で知られています。シンクタンク時代から、わかり易くそれでいて鋭い論調は多くのファンを持つと同時に愛知県や名古屋市の有識者会議の委員など公職も多数務められています。「名駅ビッグバン」や「リニア・インパクト」なども精力的に調査研究され、あちこちで引っ張りだこと言って過言ではありません。
直接お話を伺った時の感激と感動はお伝えできませんが、その概要をお知らせしようと思います。

講師：江口 忍氏（名古屋学院大学現代社会学部教授）

名古屋市において、中部圏において金山が果たす役割に視点を置いてお話ししようと思います。

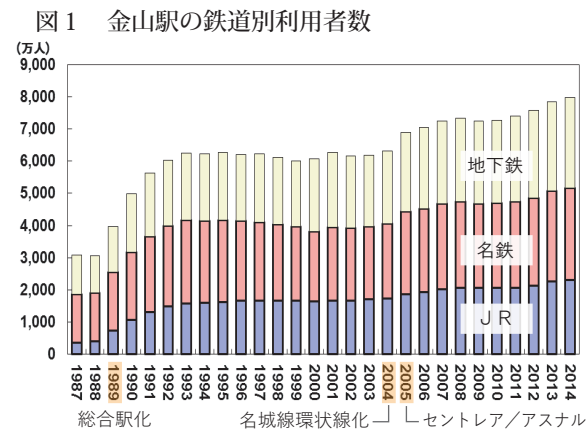
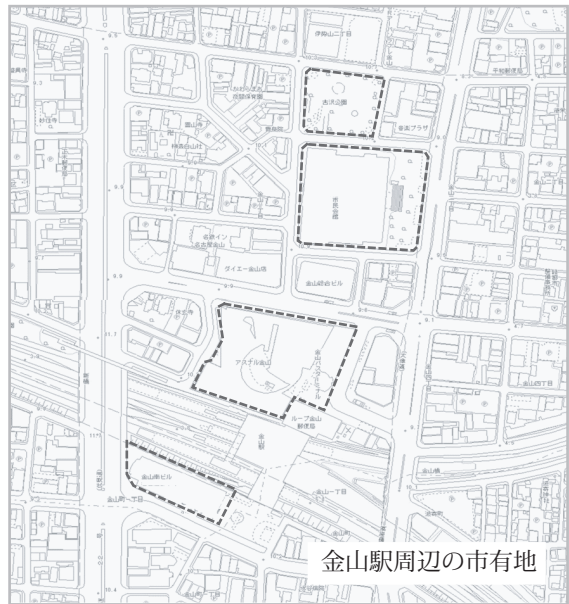
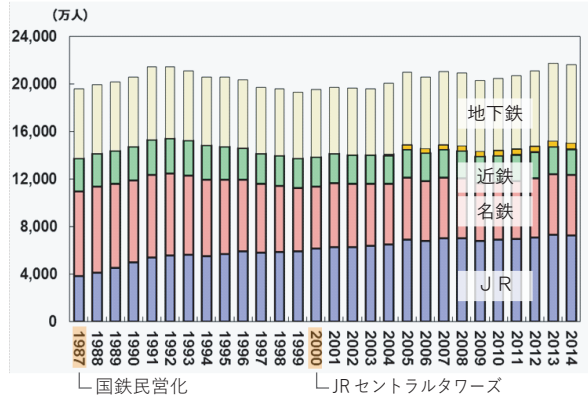


図1（参考） 名古屋駅の鉄道別利用者数



閉館が決まった名古屋ボストン美術館後を大阪・梅田北の「ナレッジキャピタル」的な施設にすることということも考えられますし、また、海外の高度人材が必要とする環境を整えること、例えばインターナショナルスクールなどがあってもいいかも知れません。